

# 生長する環境

一つの花片がほかの花片に

陽のめぐりやうで影をおとすこ

翳<sup>かげ</sup>つた葩<sup>はな</sup>は身をまかせるやうに

嬉<sup>うれ</sup>しみ息<sup>いき</sup>づき薫<sup>かほ</sup>りつゝ憩<sup>やす</sup>む

風に搖<sup>ゆ</sup>られて一つの花が

そばの群<sup>ぐん</sup>葉<sup>は</sup>に舞<sup>ま</sup>ひこむとき

その葉は凝<sup>こ</sup>視<sup>し</sup>の網<sup>あみ</sup>に絡<sup>か</sup>まりつゝも

仲<sup>な</sup>間の睦<sup>なご</sup>しさに怡<sup>やす</sup>々と抱<sup>か</sup>きこられる

橋

爪

健

未成の私を圍む世界は大きいやうだが  
内なる眼にはまだまだ小さく見え  
唯自分の姿ばかりが巨しく見え  
葩の影も葉の搖籃もないけれど

あゝ今はもう私の小さい環りにも

仙女の圈に似た聲がきこえ

鳳仙花の顆のはじけるほぎの

影さ匂ひの親らの世界が展けてきた

おゝ鶉よ 蒿雀よ、小鳥は歌へ

桐合歡、アジアンタム、樹草は伸びよ

おまへらの響が影がとどいてきたら

私もだんだん伸びて行かう歌へもしよう。

生長する環境